



## 實松 恭子

SANEMATSU Kyoko

パソナ  
常務執行役員 関西営業本部長



# だれもが健康で イキイキと活躍できる 社会の実現に向けて



私たちは2008年から淡路島での地方創生事業に取り組み、今年で17年がたちました。関西の皆さまには淡路島は身近な場所だと思います。一方、本社機能の一部移転の発表の際は、東京からの反響が非常に多かったように覚えています。淡路島に機能を移転したのは、人事や広報、経営企画などのいわゆる「管理部門」ですが、地方創生事業全体を見てみると、最も大きな事業体は観光業となっています。日本において観光業は非常に大きな産業になりました。2024年の訪日外国人旅行者数は3,600万人を超え、政府は2030年に6,000万人をめざすとの目標を掲げています。地方においても、観光業は財政の生命線を担っており、それは淡路島も例外ではありません。

私たちは淡路島でさまざまな飲食店やマルシェ、また、アニメやキャラクターの力を借りたテーマパークを運営しています。日帰りではなく、長期滞在していただけるような観光プランを提供していきたいと考えています。

この流れは、今年の大阪・関西万博につながっています。パソナグループが出展するパビリオン「PASONA NATUREVERSE」は、「いのち、ありがとう」をコンセプトに、からだ・こころ・きずなをテーマにしたさまざまな展示を行います。一番の目玉は、澤芳樹 大阪大学名誉教授が開発する「iPS心臓」です。iPS細胞から作られた人工の臓器モデルが自律拍動する様子をご覧いただけます。医療現場で「iPS心臓」が使われることは少し先の未来かもしれませんが、展示を見た子どもたちの中から、未来の医療を実現する人が出てくるかもしれません。そして、パビリオン建築にはアンモナイトの螺旋形状を採用しています。“いの

ち”というものを考える上で、約4億年前から現在まで、形を変えずにいのちをつないできた「アンモナイト」は、私たちのパビリオンコンセプトをわかりやすく表現してくれています。さらに、テクノロジーと自然、私たち人間との共生の象徴として、漫画家の手塚治虫氏の「鉄腕アトム」が、パビリオン全体のナビゲーターを務めます。パビリオン外観にもアトムは登場していて、先端に座り、未来を見つめるように海に向かって指をさしています。実はその方向には淡路島があり、万博を機に世界中から訪れる方々に、淡路島に来ていただきたいという想いを込めています。

阪神・淡路大震災から30年となる今年2025年は、パソナグループにとっても創立50年という節目の年。次の50年に向けた新しいチャレンジの1年でもあります。

日本における労働力人口の減少は避けることができません。また、からだやこころの健康、働く環境やモチベーションの状態によっては、入社したからといって、毎日100%の成果を発揮できるとも限りません。限られた労働力で社会経済を支えていくためには、いかに自分が幸せな生き方や働き方ができているか、ウェルビーイングの実現が社会にとって非常に重要になります。

2025年は、私たちにとって「ウェルビーイング産業創出元年」になります。万博を通して発信する「ウェルビーイングな社会=NATUREVERSE」は、パソナグループがめざす未来社会そのものです。万博をスタート地点ととらえ、ウェルビーイングな社会の実現をめざした新産業を関西の皆さまとともに創っていきたいと考えています。 (談)